

令和5年度 守山市教育研究会 視聴覚部会 研究報告

- (1) 郡市名 守山市
 (2) 研究テーマ 教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ
 ～湖国からの発信～ 「学び」「心」そして「響き」へ

(3) 研究組織

支 部 長 守山市立小津小学校校長 藤澤 三千代
 事 務 局 守山市立小津小学校教諭 福原 亮太
 研究委員 守山市立小津小学校教諭 福原 亮太
 守山市立守山南中学校教諭 山根 真一郎

各校視聴覚主任

校 名	主任名	校 名	主任名
守山小学校	木村 早希	守山中学校	松岡 大策
物部小学校	泉 幸佑	守山南中学校	山根 真一郎
吉身小学校	和田 輝	守山北中学校	木村 大佑
立入が丘小学校	宇野 史哲	明富中学校	森山 慶志
小津小学校	福原 亮太		
玉津小学校	大崎 透		
河西小学校	大屋 翔吾		
速野小学校	藪内 悠史		
中洲小学校	岸本 和旭		

(4) 年間の研究（事業）報告（令和4年度）

4月 市内視聴覚主任会

11月10日（木） 第72回近畿学校視聴覚教育研究大会
 研究実践交流会提案（中学校）守山南中学校
 「主体的な学習活動のためのICT活用」

11月24日（木） 授業研究会（小学校）・吉身小学校 4年
 理科「もののあたたまり方」
 ～クロームブックを活用した実験結果の考察～

(5) 取り組み<実践事例>

令和4年度 守山市立吉身小学校4年生 理科の実践から

・単元名 もののあたたまり方

・本時の目標

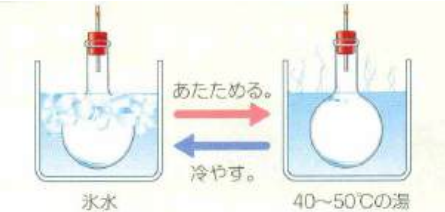
(1) 水は温めたり、冷やしたりすると体積が変化することを理解できる。(知・技)

(2) 水の体積変化について、前単元の学習や前時の実験から根拠のある予想や仮説を発想し、表現できる。(思・表・判)

(3) 温度による水の体積変化を実験の結果から考察し、表現できる。(思・表・判)

・本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援	評価規準・評価方法 (☆)
導 入 7 分	1. 理科室の使い方を確認する。	・理科室の使い方や実験方法について説明する ① 実験に使うもの以外は触れない。 ② 指示があるまで待つ。 ③ 実験器具の取り扱いについて注意する。 ④ 実験中は、使わないものは机の中にしまう。	
	実験：水も空気のように温度変化によって、体積が変化するのだろうか。 めあて：水は温度によって体積が変化するか調べよう。		
	2. 実験の予想を思い出し、全体で交流する。 ・水は閉じ込めた時押せなかったので、温めても体積は変わらないと思う。 ・水を沸かしているときにブクブクしているから、温めると体積は増えると思う。 3. 実験の方法を確認する。	・予想を交流するうえで、そう考えた根拠も発表させる。	・水の体積変化について、前単元の学習や、前時の実験から根拠のある予想や仮説を発送し、発表している。 (思考・判断・表現) ☆発表内容、ワークシートへの記入
	・実験の方法を確認する。「温度による水の体積変化の確認の実験」 ① 丸底フラスコの口いっぱいまで水を入れる。 ② 丸底フラスコにゴム栓を付けたガラス管をはめ、水面の一番上の位置にビニールテープで印をつける。 ③ ②で用意したフラスコを温めたり冷やしたりして、水の体積変化を観察する。実験結果の様子を		

<p>展開 2 5 分</p>	<p>4. 実験の準備をする。(5分以内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8グループに分かれる(1グループ4人) ・役割分担して、準備する。 <p>5. 班で実験をする。(15分)</p>  <p>・実験結果をワークシートに記録する(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス管を丸底フラスコにはめる時、必ずゴム栓をもってはめるように伝える。 ・お湯につける場合、やけどの危険があるため、ゴム手袋をするように伝える。 ・ゴム栓がしっかりはまっているかどうか確認する。 ・全班がそろってから始めさせる。 ・ガラス管などを丁寧に扱うように再度声をかける。 ・結果記入とともに、空気の実験の時との違いにも注目させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで役割分担し、協力して実験を行っている。(主体的に学習に取り組む態度) ☆活動の様子 ・<u>水は温めたり、冷やしたりすると体積が変化することを理解している。</u> (知・技) ☆ワークシートへの記入
<p>まとめ 1 3 分</p>	<p>5. 実験結果を全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温めると体積は大きくなった。 ・空気と同じで、温めると体積が大きくなった。 ・水位があがったので、水の体積が大きくなった。 <p>6. 実験のまとめをワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水は空気と同じように温めると体積が大きくなり、冷やすと体積は小さくなる。 ・空気と比べると、水の方が体積変化は小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートをタブレットで用いて、大型テレビの画面に映す。 ・水位があがったので、水の体積が大きくなったといえることを確認する。 ・空気の実験結果と比較させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・温度による水の体積変化を実験の結果から考察し、表現している。 (思考・判断・表現) ☆ワークシートへの記入、発表

(6) 資料・教具・準備

学習用パソコン(クロームブック)・・・児童各1台、教師用1台
大型ディスプレイ

(7) 考察

本授業は、水を温めたり冷やしたりし、その体積の変化について考察する学習だった。そして、その学習の中で「実験の経過を記録する」という部分にクロームブックでの動画撮影を取り入れていた。経過を記録し、最後に全体でその動画を共有することで、実験結果の確認へとつなげていった。また、その動画を保存し、前時の空気の実験と比較し、体積が大きくなっていくスピードを比べるという活動にもつなげていくとのことだった。ICTの大きな利点である、記録し、保存することで、後で見返すことができるという部分を有効に活用した授業であったと考えられる。

授業後の研究会では、授業におけるICTの活用方法（特に動画撮影に関して）や、ICT活用における各校での課題についての話が出た。まずICT活用、特に動画撮影に関しては、上記でも述べたように、今回のような理科の実験の経過や体育での自分の活動の様子などを記録することで、保存することでいつでも見返したり、全体で共有したりすることができるというメリットがある。一方で、動画撮影をする際にはいろいろな配慮や工夫が必要だという意見も出た。例えば今回の場合、全体で動画を共有する際に、水が透明なための変化が見にくかったり、クロームブックを持って動画を撮影したために、手ブレが起きてしまったりということがあった。大型のスクリーンに写す際には実際に目で見ていたよりも見えにくいことが多いため、事前にどう見えるかの確認や、撮影する際の場の設定の工夫が必要だと考えられる。



(8) 成果と今後の課題

守山市では、児童一人一台の学習用パソコンが配布されてから約2年が経過した。今回の授業を見ても、児童が学習用パソコンの扱いに慣れてきていることが鮮明に見て取れた。そして、本授業は、そのような児童の実態に合わせて、学習内容をより分かりやすく、より深めるための有効な手立てとして、学習用パソコンを取り入れた実践であったと考えられる。記録し、共有するということの有効性を改めて確認できたことが大きな成果であった。一方で、児童が扱いに慣れてくると情報モラルや使用のルールなど、他の部分に課題が出てくるため、教師もよりいっそうの知識や技能の向上に励んでいくことが重要になってくると考えられる。

令和6年度 小学校視聴覚部会 研究報告

(1) 郡市名 蒲生郡

(2) 研究テーマ

研究主題
自ら考え、共に学び合おうとする子どもを育てる ～ICTの効果的な活用を通して共に学び合い・伝え合う授業づくり～

(3) 研究組織



支部長 日野町立日野小学校 校長 岩脇 俊博
研究推進委員 竜王町立竜王西小学校 教諭 宮居 賢

(4) 年間研究報告

月	竜王西小学校 校内研究
4	・校内研究 テーマの設定
5	・研究授業① 5年生 社会科「さまざまな土地の暮らし～岐阜県海津市・群馬県嬭恋村～」
6	・竜王町学校園自主公開アピール事業 4年生 算数科「計算の順序を調べよう」 6年生 体育科「みんなで!」「みんなが!」タッチダウン! 【E:ゲーム ア ボール型ゲーム フラッグフットボール】
7	・研究授業② 特別支援学級 生活単元学習 「七夕集会をしよう」 ・1学期の振り返り
8	・ICT授業づくり校内研修 ・2学期の計画
9	・研究授業③【学ぶ力向上訪問】 4年生 国語科「一つの花 たんていノート」で、題名の持つ意味について考えよう
10	
11	・研究授業④ 1年生 図画工作科「すきまちゃんの すきな すきま」
12	・2学期の振り返り
1～3	・3学期の計画 ・研究のまとめ 来年度の方向性の検討

(5) 取り組み（実践事例）

竜王西小学校では、令和5年度から「ICTを効果的に活用した授業づくり」についての研究をしている。昨年度の取組や実践では、児童の姿からICT機器やタブレット端末を使った授業に対して、前向きに取り組む姿勢が見られるようになってきたことや友だちの考えや意見を画面共有することで比較しながら相違点を見つけ、考えようとする姿が見られるようになってきた。その一方で、友だちとの交流を通して自分の考えを深めたり、より確かなものとしたりする話し合いや交流には至っていないという課題が見えてきた。また、ICT機器を授業で活用する中で、「どこで・どのように」活用することが、教科や学習のねらいに迫るためにより効果的かを考え、活用する必要があるという課題も見えてきた。そこで今年度は、児童間の交流や話し合い活動をより活性化させ、自分の考えを深め、より確かなものとしてできるようICTを効果的に活用した授業づくりを目指し研究に取り組んできた。

実践事例①	学年：5年生	教科・単元：社会科・「さまざまな土地の暮らし」
<p>ミライシードのカード1枚に自分の考えをまとめ、グループで交流を行った。交流の中で、写真や図、グラフを用いて自分の考えの根拠を明らかにしながら説明する姿や「深まりタイム」という時間を設定し、考えを伝え合うだけでなく、友だちの意見と比較して考えたり、疑問に思ったことを質問したりする活動を通して、学習課題について意見を出し合った。全体交流では、グループの代表者がカードを大型モニターに映し出し、グループで練り合った考えを発表した。その際に、自分のカードではなく、友だちのカードを提示して説明する姿も見られ、グループ交流で視野が広がり、友だちの考えから自分の考えを深めることができた児童も見られた。</p>		
実践事例②	学年：6年生	教科・単元：体育科・ゲーム領域 ゴール型 フラッグフットボール
<p>タブレットに作戦カードを配布して児童が「いつでも・繰り返し」見られる環境作りを行った。準備運動では、主運動につながる動きの動画をモニターに映し、児童はその動きを見て準備運動をするようにした。そうすることで教師は児童一人ひとりをよく見取り、個別に声かけや指導することが可能となった。ゲーム中には動きを録画して、自分たちの動きを客観的に確認することができるようにした。また、ふり返りでは、Google フォームのアンケートを活用することで、グラフや数値でその場で全チームのふり返りが全体共有されることで、本時の学習をふり返り、次時の課題を立てやすくなった。</p>		

(6) 成果と課題

ICT機器を活用することによって、90%以上の児童が「先生や友だちの説明がわかりやすい」と児童アンケートに回答していることからICT機器を活用することで、「視覚的に捉えやすい」「瞬時に比較できる」などICTのよさを感じながら学習活動に向かうことができるようになってきている。また、単元や1時間の授業の中で子どもたちに「何を学ばせたいか」「何に気づかせたいか」などねらいを持って活用することで、ICTの活用を焦点化し各教科の見方・考え方を意識した授業づくりに取り組むことができた。今後は、子どもたちが友だちに自分の考えを「話したい」と思える学習活動となるよう、児童への問いや提示する資料の工夫などを大切にすると共に、どのようにICTを活用することがより効果的であるかということについて研究、実践を積み重ねていきたい。

- (1) 郡市名 近江八幡市
- (2) 研究主題 「教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ」
- (3) 研究組織 支部長 西堀 公範（馬淵小学校）
 運営委員 辻 直紀（馬淵小学校）
 研究推進委員 高阪 勝己（岡山小学校）

(4) 年間の事業報告

- 5月2日 教科等主任会
 6月26日 県視聴覚部会 支部長会
 7月22日 県視聴覚部会・幼小中教育研究会情報・統計部会
 支部長・運営委員・研究推進委員 合同研修会
 11月22日 第73回近畿放送教育研究会・第73回近畿学校視聴覚教育研究大会
 11月27日 公開授業 安土中学校
 2月 小中支部長・運営委員・研究推進委員 合同研修会

(5) 実践事例

安土中学校のご厚意により、近江八幡市教育委員会主催の令和6年度特色ある学校づくり推進事業「授業改善推進モデル校事業」の公開授業と合わせて、研修会を開催した。この研修会は、近江八幡市小中学校教育研究会「情報・統計教育部会」と合同で行った。

- 研究授業 安土中学校 第3学年2組 理科
 ○期 日 令和6年11月27日（水）
 ○単元名 地球と宇宙 「宇宙を観る」
 ○本時の目標 天体シミュレーションを使って、太陽の1日の動きを分析できる。
 ○本時の展開

学習内容	教師の支援	評価規準 (評価方法)
1. 前時の内容の復習 2. 本時のめあての確認 天体シミュレーション を使って、太陽の1日の 動きを分析できる 3. 太陽の「見かけの動 き」のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>デジタル教科書</u>を使って、小学校で学習した内容や、太陽の観察方法について復習する。 ・ ワークシートを配布する。 ・ <u>天体シミュレーション</u>を電子黒板に提示しながら、太陽の日周運動について説明する。 ・ <u>書画カメラ</u>を使って、太陽の「見かけの動き」のしくみについて説明する。 	

<p>4. 太陽の日周運動 (ワークシート)</p> <p>5. 太陽の年周運動 (次時の予告)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>授業支援ソフト (インタークラスクラウド)</u> を使って、生徒の <u>タブレット端末画面</u> を管理・共有する。 ・ <u>天体シミュレーション</u> の時刻を操作しながら、「日の出」「日の入り」等の語句をワークシートに記入させる。 (問) 「日の出」の時刻は何時ですか。 (問) 「日の入り」の時刻は何時ですか。 (問) 太陽の高度がもっとも高くなる時刻は何時ですか。 ・ 南中時刻が正午にならない理由を説明する。 ・ <u>天体シミュレーション</u> の日付を操作しながら、太陽の南中高度が季節によって変化するようすを見せる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>〈主体的な学びの姿〉 時間によって変化する太陽の動きに興味をもち、天体シミュレーションを繰り返し操作する姿</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>〈対話的な学びの姿〉 太陽の動きに関する興味や疑問を友だちと交流しながら、その規則性を見出そうとする姿</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈深い学びの姿〉 太陽の動きの1日の動きを分析することで生まれた新たな疑問を解決しようとする姿</p> </div>	<p>天体シミュレーションを使って太陽の動きを調べ、「日の出」「日の入り」「南中」の時刻を分析している。</p> <p>(評価方法：ワークシート)</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
<p>6. 振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>Google form</u> を使って、本時の振り返りを記入させる。 ・ 「疑問に感じたこと」等を共有する。 	<p>観察や分析を通して気づいたことや疑問を次の学習に生かそうとしている。</p> <p>(評価方法：振り返りシート)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>

(6) 成果と課題

<成果>

今年度は、中学校のタブレット端末の効果的な活用についての実践を市内小中学校と共有することができた。小学校教員にとって、中学校の授業を見る貴重な機会を設けることができた。

<課題>

- ・ 視聴覚教育部会の内容と情報・統計教育部会の内容が重なるところが多く、公開授業等を共催という形で実施している。

- ・ 今年度は、中学校の実践から学ぶことだけで活動を終えてしまった。来年度は、小学校の実践が交流できるように取り組みたい。

令和6年度 小・中学校教育研究会視聴覚部会実践事例

1 研究主題

「chromebookをはじめとした多様なメディア環境（マルチメディア）を通して、生きる力と豊かな感性をもつ子どもの育成を目指したICT教育のあり方を追求しよう」

2 大宝小学校での実践

(1)資料や発問をパワーポイントにまとめた学習

①教科：算数：「プログラミングにちょうせん！」（4年生）

②時間：第1時間目／全2時間

③めあて：図形を見て、どのような手順で一筆書きをすれば完成させられるかを見抜き、図形を完成させることができる。

④視聴覚教材の使い方

Chromebook のプログラミング教材を用いて、児童が活動する。

⑤視聴覚教育としての学習のねらい

失敗を繰り返す中で「すぐに」「間違えたところから」スムーズにやり直しができることで、意欲を継続してプログラミングを実践させる。

⑥本時の学習展開

主な学習活動	教師の指導・支援
1 3つの図形を見て、どの図形が一筆書きが可能かどうか考える。	<ul style="list-style-type: none">• 様々な順序があり、どのように順序を辿ってもゴールにたどり着けることを説明し、複数の解答があることを知らせる。• 短い手順でゴールにたどり着くことを目標とする。• 図形を一筆で書くという意味を理解する。

<p>2 プログラミングゲーム（ロボットを動かして一筆書き）を行う。</p> <p>3 どのような手順でゴールすることができたか発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「何度でもやり直してもよいこと」「誰かと相談してもよいこと」を確認し、試行錯誤して取り組めるようにする。 • ゴールに辿り着けたものは大いに認める。 • 最短の手順でゴールができるものを確認し、できるだけ少ない手順を考えるよう促す。 • 最短の手順でゴールする方法を考えさせる。 • 失敗しても、何度もやり直していることを認める。
---	---

3 成果と課題

Chromebook を用いて、プログラミングの操作を行うことで、子どもたちが意欲をもって学習に取り組むことができた。また、失敗をしても「すぐに」「間違えたところから」できるため、やり直すことへの抵抗が低く興味を維持した状態で、何度も試行錯誤をすることができていた。

しかし、Chromebook のプログラミングソフトを用いるためには、ある程度の操作ができることが条件となる。そのため、学習を計画する時には、子どもの技能に合わせたレベルのプログラミングソフトを精選する必要がある。



令和 6 年度 小学校視聴覚部会 研究報告書

(1) 郡 市 名 犬上郡

(2) 研究テーマ 児童が輝き、計算の基礎を身に付ける ICT 機器の活用

(3) 研究組織

世 話 係 多賀町立多賀小学校 校長 高橋乃生子

理 事 甲良町立甲良東小学校 教諭 中島康喜

研 究 員 豊郷町立豊郷小学校 教諭 瀬戸智晴

校名	主任名
日栄小学校	井上滉斗
多賀小学校	松宮誠司
大滝小学校	仁井理紗
甲良西小学校	岡野慎也

(4) 年間の研究（事業）報告

5月2日（木） 教科主任会

5月3日（金） ～各校での実践

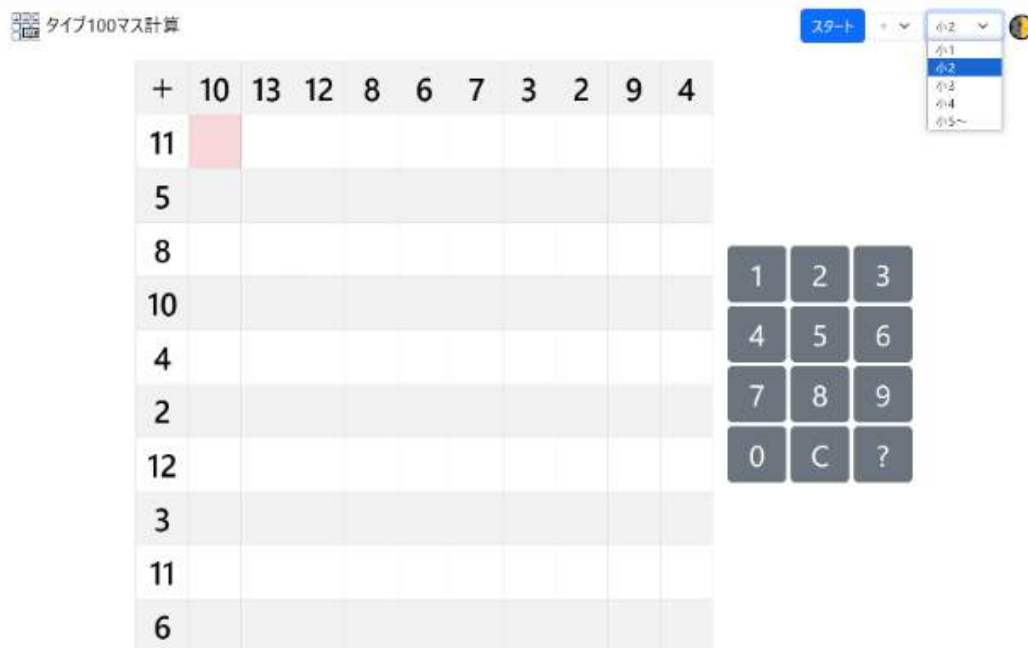
(5) 取り組み<豊郷町立豊郷小学校での取組>

本校の児童の実態として、算数の難しい内容に進んで取り組んだり、粘り強く学習したりすることが難しい様子が見られる。

そこで本校では、「計算王決定戦」という算数への動機づけや計算力の習熟、児童の活躍する場を増やすための場を設定している。昨年度は有志を募って紙面の計算問題で取り組んだ。昨年度の様子をみていると、計算の得意な児童の活躍の場にはなっていたがそれ以外の児童に関心が見られなかった。そこで本年度は、1年生、2年生のみ有志で紙面の問題で実施し、3～6年生は全員参加の形で web 上の百マス計算ページを活用して実施した。問題量を3年生は25マス計算、4～6年生は100マス計算をタブレットで行った。本番までタブレットで練習を何度も手軽に行えるので、普段から隙間時間に練習に取り組めるようにした。本番は朝の学習時間の15分間に全校一斉に行い、練習の成果が発揮する児童の姿がみられた。



3年生用の計算王の問題 https://nll.red/index_100masu.html



4～6年生用の計算王の問題
<https://marmooo.github.io/type-100masu/>

※正解しないと次に進めないため、
 終了時には全問正解



タイム（かかった時間）が表示。

3年生の時終わったときの画面
 ※正解しないと次に進めないため、終了時には全問正解

スコア

クリアタイムは...



223.316 sec!

Twitter でつぶやく リスタート

他にもいろいろなゲームがあるよ!



タイム (かかった時間)
が表示

4～6年生の時終わったときの画面



4年1組 全員実施



5年1組 全員実施



5年2組 全員実施



6年1組 全員実施



4～6年生の上位3位の表彰式

(6) 成果と今後の課題

【成果】

- ・タブレットを活用することで計算嫌いな子どもでも一生懸命取り組む姿が見られた。
- ・特別支援的な視点からも書字の苦手な児童にも取り組みやすい形になった。
- ・丸付けや問題作成の時間が削減されるため、4～6年生での全員実施という形で行うことができた。
- ・タブレットで行うことで本番前に何度も自分でしたいタイミングで練習することができた。
- ・時間や点数が正確に出るため公平に順位をつけることができた。
- ・タブレットを導入し学校全体で取り組むことができ、大々的に表彰式を行うことができたので、児童に達成感を味わわせる機会を設けられた。
- ・たし算の問題だけではなく、他の四則計算全てを行えるので2学期や3学期では違う形でも実施できる。

【課題】

- ・上位に入れなかった子のやる気を2回目も引き出せるか。
- ・4～6年生の中でも25マス計算を選べる形で行うとよかった。
- ・機器によって起動に時間がかかり、「早く始めたいと」焦ってしまう児童が見られた。
- ・マス計算の仕方が分からない児童には不向きであった。

- (1) 湖南省
- (2) 教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ
～湖国からの発信～「学び」「心」「響き」へ
- (3) 小学校部会支部長 石部小学校 校長 三浦久輝
中学校部会支部長 甲西北中学校 校長 城 敬
研究推進委員 菩提寺小学校 教諭 田中 敦
- (4) 1～2 月 研修会(オンライン)
- (5) 取り組み

「ICT 活用によるオンライン発表会で学びを紹介しよう」

石部小学校・菩提寺小学校・水戸小学校

1 本校の概要

本校区は、東海道五十三次の宿場町として栄えた歴史ある地域である。街道沿いは宿場町としての面影を残す一方、集合型住宅も多く建ち並び、都市化の様相を呈している。本校は明治7年に創設され、本年は創立150年目となる。地域住民の学校に寄せる思いは特別のものがある。学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして10年目を迎え、活発に活動しています。

2 取り組んだ内容

(1) 「私たちの地域」オンライン発表会

～自分たちの地域の魅力を伝え合おう～

3年総合学習「私たちの地域調べ」の学習において、地元である石部の町の特徴を調べた。実際に現地でフィールドワークを実施し、記録写真を撮ったり、インターネットを活用したりしながら、地域にある伝統的な建造物や商店、地域の景色等を調べた。

単元のゴールとして、同じ市内にある菩提寺小学校、水戸小学校の3年生に向けてICT 活用の1つとして、テレビ電話を活用し、オンライン発表会を実施した。同じ市内でありながら、場所によって景色やそこにある建造物の違いや地域の特徴の違いに気付くことができ、より湖南省の魅力について知り、郷土愛を深めることができた。現地に住む人だから感じられることを伝えることで、より深い知識と学びへとつながっていけるよう伝える内容の精選をした。



(2) FS に向けたオンライン交流会

～自分たちの自己紹介を伝え合おう～

5年総合学習「びわ湖環境学習」において、今年度は同じ市内の菩提寺小学校と学習船「うみのこ」に乗船をし、琵琶湖を舞台にして1泊2日の日程で環境学習に取り組んだ。



少しでも両校のことを伝え合うために、またうみのこの船内でともに学ぶ同じ班の仲間たちと少しでも早い段階で仲良くなり交流へつなげていくために、事前に石部小学校と菩提寺小学校の両校でテレビ電話を活用し、オンライン交流会を実施した。

同じ班で活動する仲間と事前に交流ができたこと、また、自分の自己紹介をしたり、相手の自己紹介を聞いたりすることで、親近感を持った上で、フローティングスクールに臨むことができた。当日は、顔を合わせると、お互いの共通の趣味の話で盛り上がっている姿も見られた。



3 活動の成果

- 質問に対して、書いてあるものを読むだけではなく、自分の言葉で話す力が身に付いた。
- 相手にわかりやすく伝える話し方について、話すスピードや目線、声量などを意識しながら発表することができた。
- 相手の笑顔が見られ、楽しく活動を進めることができた。
- 石部の町とは違う地域の様子を知ることができ、「また行ってみたい」と感想で伝える児童が多かった。
- なかなかフィールドワークに行くことができない地域の様子を現地に住む児童の生の声で聞けることで興味関心の高まりが見られた。
- オンライン発表会での取組のさらなる可能性を感じた。

(6) 成果と今後の課題

今年度はICTを活用した遠隔での交流に取り組んだ。ICTの活用事例は「個別最適な学習」に取り組むことが多かったが、今後はICTを用いて対話をする授業が大切になってくると考えている。「共同編集・他者参照」を用いて対話を大切にしたい授業を深めていきたい。

令和6年度 高島市小学校教育研究会 視聴覚部会研究報告

(1) 郡市名 高島市

(2) 研究テーマ 「児童の主体的な学びにつながる視聴覚機器の活用」

(3) 研究組織 高島市小中学校教育研究会 視聴覚部会(小学校)

部会役職	所属	職名	氏名
部会長	高島小学校	教頭	城戸 久貴
副部会長	今津北小学校	教諭	竹谷 千秋
運営委員	新旭南小学校	教諭	磯野 千紘
研究推進委員	高島小学校	教諭	菅谷 将大
部員	高島小学校	教諭	濱口 未来
	高島小学校	教諭	堀居 真帆
	新旭南小学校	教諭	後藤 凌
	新旭南小学校	教諭	井上 颯

(4) 年間研究(事業)報告

令和6年5月 7日 研究組織の確認、テーマ、計画の検討及び決定

令和6年6月12日 高島市小学校教育研究会 視聴覚部会研修会

「ロイロノートの効果的な活用方法、

プログラミングの指導方法について」

講師：滋賀県総合教育センター 唐崎 展之 指導主事

(5) 取り組み

5月7日に開催した第1回研究部会では、今年度の研究組織や年間計画の確認、研究テーマの検討を行った。

6月12日には、第2回研究部会となる高島市小学校教育研究会視聴覚部会研修会を開催した。滋賀県総合教育センター 唐崎 展之 指導主事をお招きし、「ロイロノートの効果的な活用方法、プログラミングの指導方法について」を演題に、実践事例などについて講演・演習をしていただいた。

まず、プログラミングアプリ「MESH」についてお話いただいた。アプリ上で作成したプログラムをブロックと連動させ、アクションを制御することができる。実際にアプリを操作し、プログラムを作成した。参加者の作成したプログラムだけでも多種多様なものがあり、児童の様々なアイデアを自由に表現できるプログラミングツールだと感じた。また、理科や算数といった教科の学習でも活用できるため、今後活用していきたい。



次に、Microsoft の AI アシスタントツールである「Copilot」についてお話いただいた。生成 AI については文部科学省からもガイドラインが出されており、教員が活用方法を正しく把握し、指導に取り入れることが求められている。実際に利用して、活用方法について学んだ。例えば、「中学年で運動会のダンスに使える曲」について尋ねると、ふさわしい曲をいくつか選出してくれた。学習活動のアイデアを探し求める場面において活用できると感じた。生成 AI については様々な利用方法があり、これからも進化を続けていくツールである。常に研修などで学び続け、積極的に、そして適切にツールを活用していきたい。

(6) 成果と課題

研修会では、実際にタブレット端末を操作しながら演習をすることで、具体的にイメージでき、良い研修となった。

特に生成 AI については、「便利なツールだと聞いていたが、どう使えばよいのかわからない」という悩みを持つ教員が多く、実際に利用することで活用方法を学ぶことができた。



今後は、視聴覚部会で学んだことを部員だけの学びに終わるのではなく、各校の教員にいかにか広められるかが課題である。多くの教員がよりよく ICT 機器を活用し、子どもの学びを広げたり深めたりできるよう、視聴覚部員が中心となり研修や実践報告を行っていきたい。

令和6年度 小学校視聴覚部会 研究報告

(1) 郡市名 草津市

(2) 研究テーマ

「ICT を活用して 学ぶ意欲と豊かな表現力 生きる力を育成しよう」

(3) 研究組織

【市部会別研修会】 部会長 堀江 和男（南笠東小）、副部会長 宮嶋 貴憲（草二小）

【県小・中学校教育研究会】

	部会長	小学校部会長	中学校部会長	研究委員長
視聴覚教育部	堀江 和男 (南笠東小)	堀江 和男 (南笠東小)	布施 久幸 (新堂中)	有澤 直輝 (新堂中)

学校名	氏名	学校名	氏名
高穂中学校	松本 浩季 西出 尚記	玉川中学校	大西 知行
草津中学校	古本 賢治	新堂中学校	有澤 直輝
老上中学校	津留崎 駿	松原中学校	山内 健太郎
志津小学校	古賀 安人 堀 真介	老上西小学校	山田 洋人
志津南小学校	堀井直人	玉川小学校	森 和昭
草津小学校	矢野 雄飛	南笠東小学校	桂 審
草津第二小学校	川満 和磨 大江 彬 島田 正和	山田小学校	瀧 弘人
渋川小学校	谷 隆侍 中川 広紀	笠縫小学校	片山 茂樹 戸田 裕基
矢倉小学校	松浦 慧 佐々木 琢磨 太田 晴奈	笠縫東小学校	山下 冬馬 杉原 悠峻
老上小学校	佐竹 哲平 中井 善久	常盤小学校	伊地智 誠 京近 剛史

(4) 年間事業計画

- 4月11日(木) 草津市教職員教科等部会別研修会 ICT 教育部会第1回研修会
- 6月26日(水) 滋賀県小学校教育研究会視聴覚部会 支部長会議
- 7月22日(月) 県教育研究会視聴覚部会・幼小中教育研究会情報・統計部会
運営委員・研究推進委員合同研修会
- 12月4日(水) 草津市教職員教科等部会別研修会 ICT 教育部会第2回研修会①
- 1月17日(金) 草津市教職員教科等部会別研修会 ICT 教育部会第2回研修会②

(5) 取り組み・・・草津市立南笠東小学校の実践より

令和6年度
New草津型アクティブ・ラーニング実践事業
中間発表
令和6年12月4日(水)
草津市立南笠東小学校

昨年度までの取り組み

- 「ふりかえり」を意識した授業づくり
- 「単元構想」を意識した授業づくり

ゴールからの逆設計

New 草津型アクティブ・ラーニング とは？

GIGAスクール構想による1人1台端末

⇒ ICTをいつ・どのように使うか自分自身

個別最適な学び

より質の高い主体的・対話的な深い学びにしていく

「単元構想」

単元のゴールを明確にして設計

問題設定 → 学習計画 → 自力解決 → 協働学習 → まとめ →

- ◎ 単元全体
- ◎ 1単位時間

令和6年度学校目標

自ら学ぶ子、
心豊かな子、
人とつながる子の育成

「大人」も「子ども」も
学び続けていく2年間に!!

令和6年度の校内研究テーマ

「子どもたちが主体的に
より思考を深められるICTの活用」

～「おもしろい(知的好奇心が高まる)」と思える授業づくり～

今年の「めざす子ども像」

主体的に学習に取り組んでいる。
(学習が苦手な子どもたちも
「やってみよう」と取り組んでいる姿。)

めざす授業

昨年度までの授業の逆設計の継続はもちろん、本年度は特に…

- ① 単元構想を意識すること。
「問題設定(発見)」→学習計画→
自力解決→協働学習→まとめ
- ② ICTの効果的な活用

児童の理解・理解の取れ

この2つの人数割に入っている人数はどちらが多いでしょうか？

この数ではどちらの数が多かったですか？

学習する意欲がある、意欲がない

算数の問題やまじが読解力、読み取れない、読み取れる

どのくらい正しいか書いてみるかな

どうすれば くらべられるかな？

児童の理解・理解の取れ

水の量が増えれば水の量は増える、減ると減る。その際、水の量は同じになるようにする。

学習する際、その理由もわかるようにする。

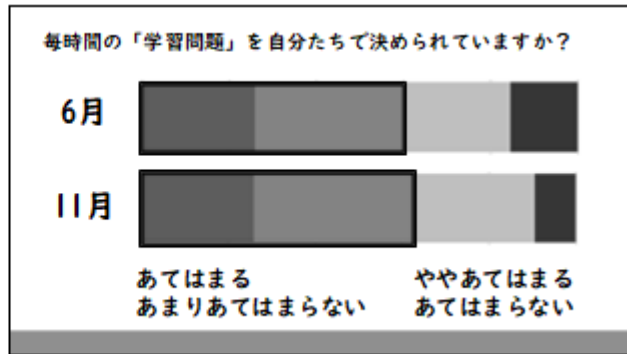
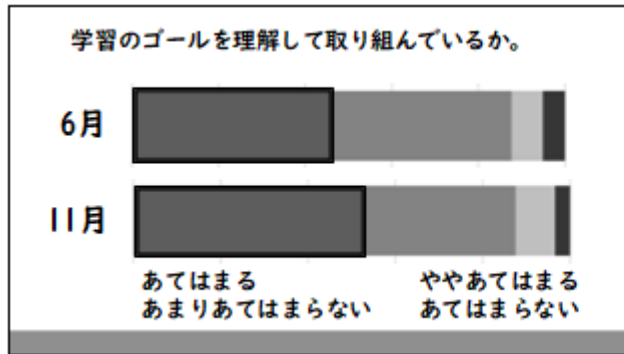
読み取れない問題は読み取れないとわかる、読み取れるようになっていく状態を高めるようにする。

計算と読解したものの違いに気付く、算数を理解しやすくなる、学習意欲につながる。

全校の取り組み

書く力が弱い

- ・朝学習での「書くトレ」
- ・行事後などの「ふりかえり作文」
- ・自主学習の活用（ノート作りなど）



今年度の成果

- ・教師が「単元構想」を意識した授業づくりの定着
- ・「子ども」も「大人」も問題解決型学習への取り組み

次年度への課題

- ・子どもが主体の授業づくり
「問題発見」→「問題解決」まで個別最適化への取り組み
- ・子どもたちに合ったより効果的なICTの活用方法
「場面」「思考ツール」

【具体的な実践】

第1学年 算数科 「かさくらべ」 第2時（全3時）

(1) 本時の目標

長さや広さの学習をもとに、かさを比較する方法を考えることができる。（思考・判断・表現）

(2) 本時の展開（2/3）

児童の思考と活動の流れ	教師の支援と評価方法等
<p>この2つの入れ物に入っている水では、どちらが多いでしょう？</p> <p>・教師が用意したものを見る。</p> <p>色水（赤と青）が入ったペットボトル×2、空のペットボトル×2、空のコップ×2、漏斗</p> <p>Ⓞ：赤と青の水では、どちらの水が多いでしょう？</p> <p>予想する。赤が多い、青が多い</p> <p>容器の高さや太さが違うから、分かりにくい。</p> <p>このままでは、比べられない。</p> <p>どちらが正しいか調べてみたいな。</p> <p>Ⓞどうすれば 比べられるかな？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水の量が違う容器A・Bを児童に提示する。その際、容器A・Bは同じ大きさとする。 ・高さに着目できるようにする。 ・予想する際、その理由も伝えるようにする。 ・見た限りでは判断できないことから、実際に調べてみたいという意欲を高められるようにする。 ・導入で提示したものとの違いに触れながら、児童が疑問に思うことを取り上げ、学習問題につなげる。
<p>T:今までの学習が役に立つかもしれない。長さや広さを比べた時は、どのようにして比べたかな？</p> <p>C:長さ→はしをそろえて並べた</p> <p>C:広さ→重ねた</p> <p>T:水をいろんな入れ物に移したときはどうだった？</p> <p>C:水→うつしても水のかさはおなじ</p> <p>教室掲示で確認する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長さや広さの学習をもとに、かさを比較する方法を考えられるようにする。（教室掲示）
<ul style="list-style-type: none"> ・どんな方法で比べたらいいかを考える。（自力解決） ・全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が用意した物は、必ず使うのではなく、「使ってもよい」とする。 ・児童の考えを板書し、整理する。 ・調べるための見通しをもてるようにする。

<div data-bbox="140 143 316 349" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">赤と青の水を、同じ大きさの2つのペットボトルに入れる</div> <div data-bbox="336 152 517 349" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">赤と青の水を、同じ大きさの2つのコップに入れる</div> <div data-bbox="557 143 735 349" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">赤と青の水を、1つのペットボトルに入れ、線を書く</div> <div data-bbox="794 152 975 349" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">赤と青の水を、1つのコップに入れ、線を書く</div> <p>・かさくらべをする。</p> <p>・全体で考えを共有する。</p>	<p>調べた結果を写真に撮り、写真に考えを書き込んだものを提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が確かめたい方法を選んで、調べられるよう声掛けをする。 ・支援が必要な児童には、ペアで活動するように声掛けをする。 ・結果の写真を撮り、どちらの色の水が多いのか、またそう考えた理由を書くように指示する。(ロイロノート) ・もともと水が入っていたペットボトルを使って直接比較する方法も認める。 <div data-bbox="995 568 1469 786" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①：赤の水の高さに線を引く。</p> <p>②：赤の容器を空にし、青の水を赤が入っていた容器に入れて、線を引く。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を示しながら、何に着目したのか、その結果どちらに水が多く入っているのかを説明をするようにする。 ・共通点を見いだすことで、数学的な見方・考え方(高さ)に着目できるようにする。 ・同じ大きさの容器を使うと、かさくらべができることに気付けるようにする。
<div data-bbox="197 819 895 875" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○○で比べました。○○だったので○の方の水が多い。</div> <div data-bbox="213 898 826 987" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">調べた結果を整理する。 すべて赤の方が高かった。赤の方が多い。</div> <p>・学習のまとめをする。</p>		
<div data-bbox="177 1167 863 1294" style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f9cb9c;"> <p>まとめ 1つの入れものや、おなじ大きさの入れものに水をうつして、たかさをくらべるとよい。</p> </div> <p>・振り返りをする。</p> <p>・片付けをする。</p>		

(6) 成果と課題

【成果】

・かさ比べに必要な材料をいくつか準備し、その中から児童に選ばせた。使う材料を完全に指定するのではなく、自分たちで選ばせたのがよかった。また、使う材料をある程度限定することで、本時のねらいがぶれなかった。

・「かさくらべ」だけでなく、それまでの「ながさくらべ」「ひろさくらべ」でも、同様の流れで授業を進めていった。「かさくらべ」の単元のゴールを意識し、単元構想を練ることができた。

・比べる活動では、グループやペアでの活動ではなく、個人での活動を取り入れた。児童一人一人が試行錯誤しながら比べる方法を考えることで、色々な考えが出てきた。

・本時では、学習のまとめに入る前の発問で、より学習を深めることができた。全体交流で、「かさくらべの際には、水の『高さ』に注目すれば、どちらが多いか分かる」ということをおさえた。その後、授業の初めに見せた、形の違うペットボトル(水が入っている)を見て、「高さが高い方が多いのであれば、こっちの方(かさが少ない方)が多いってこと?」と問いかけた。そう問いか

けることで、「同じ大きさの容器」で比べる必要があることを全体で確認することができた。

・ロイロノートで、実験結果を写真に撮らせた。どのように比べたかがすぐに分かるのでよかった。

【課題】

・実験結果を写真に撮り、考え方を書き込ませたが、書き込んだ文字や線などが見えにくい児童がいた。みんなに見えやすいように書いたり撮ったりする指導が必要。

・1年生では、ある程度実験道具を教師が用意し、どのように調べるかを自分たちで考えた。2年生では、教師が用意するのではなく、児童が「何を」「どのように」使って調べるかを計画していく力もつけさせたい。

視聴覚教育部会

I 研究主題

「教育メディアが拓く、確かな学びと生きる力」

II 研究経過

集会月日	研究事項	集会種別	会場
5.27	今年度の計画及び活動概要について	全体会	唐崎小学校
7.22	夏季公開研修講座	全体会	コラボしが21
1.14	授業研究会事前検討会	全体会	紙面交流
1.28	今年度の総括	授業公開	富士見小学校

III 研究内容とまとめ

5月27日に部会員により、昨年度までの活動を踏まえ、今年度の視聴覚教育部会の持ち方について協議した。市の情報教育部会とのすみ分けに執着することを控え、今までの県の視聴覚研究部会とのつながりも大切にしながら研究を進めていくこととした。

7月22日「夏季公開研修講座」において、県視聴覚部会・情報統計部会との共催として「アフターGIGAに向けて～課題とこれから～」と題し、講師、東近江市立愛東南小学校 小林 大輔 教頭を大津に招聘し実施する。講座では、県内のICTの活用上から見る現状と課題、子ども庁調査によるインターネット活用上から見る課題について交流し、ほかにもICTを活用する授業用コンテンツの紹介や、情報セキュリティ・情報モラルに関する研修、プログラミング教育についてなど多岐にわたった研修ができた。総勢50名を超える参加者であったが、大津市からは9名の参加でした。

1月28日には、研究主題にせまる「タブレット端末の効果的な活用」をねらいとした授業研究会を開催した。富士見小学校 前畑 響平教諭による「6年算数科『並び方と組み合わせ』」の授業では、メタモジ活用の有用性について協議し、児童のスキルに合わせてかなり高度なことまで仕組むことができた可能性を感じられた。また、石山中学校の実践報告からは、生徒会活動における広報的なICTの活用の利点について検証できたと同時に、並行して映像の取り扱い方などのモラル指導についての必要性を感じた。

V 次年度への申し送り事項

参集して本部会の方向性を協議し、授業研究会を通して、研究主題と子どもの学びとのつながりを研究できたことは成果としてあげられる。しかしながら、全体会で校種間における部会員の交流が十分に行えなかったため、次年度には、部会員の交流を活発となるよう、連携を深める方策を考える必要がある。

令和6年度 長浜市小学校教育研究会 視聴覚部会研究報告書

(1) 郡市名

長浜市

(2) 研究テーマ（研究主題）

自分の思いや考えを伝え合い、学びを深める子の育成

(3) 研究組織

部会長 長浜市立永原小学校 教頭 水谷 直美

理事 長浜市立浅井小学校 教諭 森 大地

研究員 長浜市立神照小学校 教諭 塚田 勇樹

(4) 年間の研究（事業）報告

4月17日（水）（市）市内視聴覚教育主任会

7月22日（月）（県）県視聴覚部会 小中運営委員・研究推進委員 合同研修会
通年 各校での ICT を使った授業の実践

(5) 取組（実践事例）

本校の研究主題である、児童が「自分の思いや考えを伝え合う」ことをめざし、様々な学習において「伝え合い」を大事にしている。ノートに自分の考えを書き、タブレットでみんなの考えを共有するといったアナログとデジタルのよさを生かした学習を行うことで、話し合いが深まり、互いの学び合いにつながると考え、実践に取り組んだ。

3年生「国語科 おすすめの一さつを決めよう」の学習では、児童と共に単元計画を立て、学習のゴールとしてグループで1年生におすすめしたい本を一冊選び、その本を紹介する動画を作ることとした。

単元をスタートするにあたり、児童に学習する必要感を実感させたいと考え、「冬休みに学校から借りる図書室の本はグループで一冊選び、お勧めすること」、「動画で紹介すること」という条件を話し合って決めた。そして学習のゴールが「動画を撮って1年生に観てもらうこと」に決まり、児童の意欲が高まっていった。

第1時は、自分のお勧めしたい本をじっくり読むことから始めた。お勧めしたい理由をしっかりとつこと、納得しながら話し合えると考えたからである。話し合いでは、司会者、記録者の台本や記入用紙をタブレットで用意し、話し合いがスムーズに進むようにした。他にも時間係などの役割も加え、目的意識をもって話し合えるようにした。児童から、「3年生のグループの友だちに伝わりやすいように、予め、お勧めの本の特に見てほしいページを

タブレットで撮影しておきたい。」という考えが出た。実際の話し合いでは、おすすめの一冊を説明する場面で、言葉だけでなく写真も示すことによって、絵本の雰囲気や、特に見てほしいページなどをグループみんなで共有することができた。

第3時からは、グループでお勧めの一冊が決まり、動画の撮影が始まった。1年生の目線に立って、どのようにお勧めする動画を撮るか、台詞はどうするか等の話し合いをすることになった。「短い動画の方が見てもらえる。」「本を見せたほうがいい。」など、グループでよりよい紹介になるように話し合いが続いた。何度も失敗を繰り返し「もう一度!」と意欲をもって取り組む姿が印象的であった。完成後、1年生の児童が紹介動画を視聴し、冬休みの本を選んだ。

[学習活動に取り組む児童の様子やタブレット上の画面]



①これから、1年生にしようかいる本について話し合います。目的は、1年生が本を好きになってくれるような楽しい本をしようかいることです。はじめに、しようかいたい本とその理由を、2分間で出します。その後、しようかいる本を1分ずつ発表します。○○さんから考えを教えてください。(全員終わった)

②では、1年生にしようかいる本をえらぶとすると、どの楽しさのある本がよいですか。

③それでは、○○が楽しい本の中から、1冊を決めましょう。(それぞれ意見を言ってもいい)

④1年生にしようかいる本は、○○に決まりました。1年生が楽しく読めて、本を好きになっくれると思います。これで終わります。



(6) 成果と今後の課題

「1年生に紹介する」という目的意識を明確にもたせたことで、最後まで意欲をもって取り組む姿が見られた。今回、「読書をじっくりとする」、「失敗を恐れない」ことに重点を置いて取り組んだが、特に読書をじっくりと取り組ませたことで、「なぜそこがお勧めなのか」という友だちを納得させる理由をしっかりととらせることができた。

今後の話し合い活動は、少しずつ台本から離れ、自分の言葉で話し合いを進められるよう、意図的に役割を決めて行いたい。また、タブレットを効果的に使って友だちにお勧めポイントを紹介する姿が見られたので、今後もタブレットを積極的に活用していきたい。さらに、児童が相手意識や目的意識をもち、失敗を恐れず、試行錯誤しながら学ぶことができるよう授業改善を行っていきたい。

令和6年度 東近江市教育研究会 視聴覚部会 研究報告書

(1) 郡市名 東近江市

(2) 研究テーマ

教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ
～湖国からの発信～「学び」「心」そして「響き」へ

(3) 研究組織

支 部 長	東近江市立湖東第二小学校	教頭	龍見 宏和
事務局長	東近江市立玉緒小学校	教諭	東久保 淳(代表)
研究委員	東近江市立能登川東小学校	教諭	岡田 直也
研究委員	東近江市立布引小学校	教諭	青木 大輔
研究委員	東近江市立能登川西小学校	教諭	高橋 洸仁

各校視聴覚主任

校名	主任名	校名	主任名
玉緒小学校	伊藤 光則	愛東北小学校	上田 周平
御園小学校	山根 孝仁	湖東第一小学校	脇阪 祐毅
八日市南小学校	山際 耕英	湖東第二小学校	川口真結子
箕作小学校	石山 裕輝	湖東第三小学校	福島 重治
八日市北小学校	福永 光希	能登川東小学校	岡田 直也
八日市西小学校	西 敦生	能登川西小学校	高橋 洸仁
布引小学校	青木 大輔	能登川南小学校	大川 雅人
市原小学校	延命 成弥	能登川北小学校	杉村 徹
山上小学校	四家 真人	蒲生東小学校	小山 泰知
五個荘小学校	野村 真悟	蒲生西小学校	田中 美甫
愛東南小学校	山中 瑞貴	蒲生北小学校	世良 恭子

(4) 年間の研究(事業)報告

※本年度は、市内視聴覚教育主任会は実施せず。

6月14日(金)～各校での実践

(5) 取り組み〈東近江市立布引小学校での取り組み〉

ICT を活用した授業実践～第 6 学年国語科「海のいのち」の学習を通して～

・次の 2 つの点を中心にして実践を行った。

① 映画「海のいのち」のポスターをパワーポイントでつくるという設定

映画や動画など子どもたちに馴染み深いものをテーマにすることで、子ども達が「やってみよう」とする気持ちを持ち、主体的に学習に取り組めるようにした。また、物語が自分に強く語りかけてきたことを、絵やポスターとして表現した。ポスターに入れる一文を吟味することで物語の全体像をつかみ、言葉の深い意味について考えるきっかけになるようにした。

② 「Padlet」を使った意見交流

本学級の子どもたちの実態から、全体の場での発表は活発になりにくく、限られた子どもの発言のみになってしまうことがよく見られるので、「Padlet」のコメント機能を活用することで、どの子も意見を出すことができると考えた。これまでの学習で使った時もあまり全体の場では発言しない子が、よい意見を出していたり、どの子も自分なりの意見を書けていたり、その効果が感じられた。

本単元の自分の考えを広げるという場面では、ほかの人の考えも気軽に見られることから、自分が考えたことだけでなく、ほかの人の考えと比べることさらに考えが深まる活動にできるように活用した。

・全 8 時間の単元の中の 3 時間目には次のような実践を行った。

本時(3時間目)の目標・・・

自分の考える物語の印象的な場面や言葉について、班や全体で話し合うことができる。

学習活動	◎教師の手立てと ■ICT の活用
・既習事項を確認し、本時のめあてをたてる。	◎映画「海のいのち」の予告編を提示することで、本時の活動への意欲を持たせられるようにする。 ◎この映画のポスターがまだないということから、どんなポスターにすればよいかを問い、めあてをたてる。 ■映像を見せることで、意欲付けができるようにする。

<p>・各班ごとに事前に選んでおいたポスターを確認し、そのポスターにあう一言を自分で考える。</p>	<p>◎読むのが苦手な児童には、どの場面を見ればよいのか、そこで印象的な言葉にまず線をひいてみるなどの支援をする。</p>
<p>・ポスターに入れる一言についてどれがよいのかを班で話し合い、班で1枚のポスターを作成する。</p>	<p>◎みんなの考えが似ている、同じ班には、みんながなぜその部分がいいと思ったのかを考えるように声をかける。</p> <p>◎みんな考えが違う班には、どれがふさわしいと思うのか、なぜそれを選んだのかを考えるように声をかける。</p> <p>■パワーポイントを活用することでポスター作りが気軽にできるようにする。</p>
<p>・班ごとに作成したポスターを全体で発表し、それについて考えたことをPadletに打ち込む。</p>	<p>◎発表の時には、なぜこの場面でこの一言にしたのかを言えるようにする。</p> <p>◎Padletに感想を書き込むときには、このポスターだとどんなことが伝わったのか、またいいなと思える言葉だったかを中心に感想を書けるように視点を提示する。</p> <p>■Padletの活用でいろいろな児童の考えが出せるようにする。</p>
<p>・本時のふりかえりを行い、次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>◎今回は班で作成したが、物語を読み進めて、最終自分でとっておきのポスターを作ることを伝える。</p>

(6) 研究の成果と課題

〈成果〉今回の実践を通して、普段の授業にICTを組み入れることで、子どもたちの活動の幅が広がり、もっとやりたいという主体的な姿を見ることができた。特に学年が上がるにつれて意見を出すことに抵抗が出てきたときには、Padletのようなアプリを使うことで、みんなが自分の考えを表現できるようになることが実感できた。これまでの良い実践にプラスICTの設定を様々な教科、単元、活動で有効的に活用できる可能性を感じた。



〈課題〉Padletの使い方やパワーポイントで共同編集をすると、意味のないコメントを書き込んだり、他の人のものを消してしまったり、困った使い方も見られた。併行して情報モラルの育成を図ることが今後の課題である。また、コメントであれば文章が短くなってしまうこともあるので、その都度適切な指導することも必要だと感じた。



令和6年度 彦根市小学校教育研究会 視聴覚部会研究報告

(1) 群市名

彦根市

(2) 研究テーマ

プログラミング教材を使用した、授業実践

(3) 研究組織

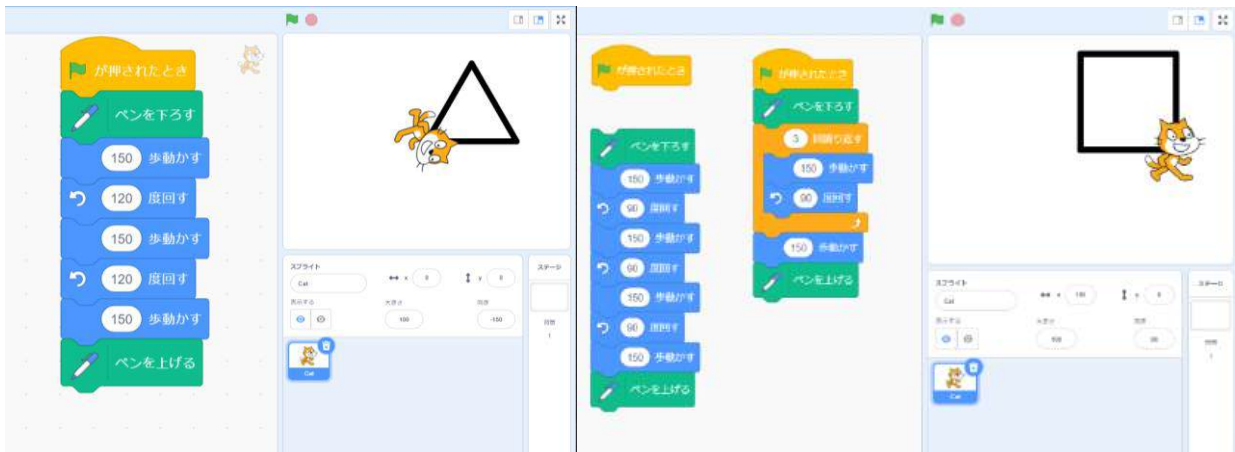
県・市運営委員 小学校 廣部 正己(旭森小) 中学校 橋本 真(中央中)
 研究推進委員 小学校 角川 智哉(佐和山小) 中学校 小谷 優希(西中)

(4) 取組(実践事例)

この授業では、算数 5年生の「正多角形と円」の単元において、児童が正多角形の特徴や円との関係を深く理解することを目的とした。具体的には、正多角形の角度や辺の長さ、円との関わりについて学び、図形を描く方法を数学的に把握できるようにすることを重視した。また、Scratch を使用して正多角形を描く活動を通じて、抽象的な数学の概念(角度、繰り返し処理など)を視覚的に確認し、実践的に学ぶことを目指した。

【授業の実際】

活動	内容	留意点
導入	・正三角形と正方形の特徴を簡単に復習 ・今日のめあての確認 『Scratch を使って正三角形と正方形を描く』	
Scratch の使い方	・Scratch の基本操作の確認(ペンツール、移動コマンド) ・実演(ペンを使って図形を描く)	・画面共有で全体に確認
正三角形を手動で描く	・正三角形を手動で描く方法を全体で考える。 (前に進む→右に60度回す) ・自分でやってみる	
正方形を手動で描く	・正三角形を作図するコードをもとに、正方形ではどうなるか考え、実践する。	・この後の繰り返し処理につなげるため、プログラムが長くなったことに目を向けるよう声をかける。
繰り返し処理の導入	・繰り返し処理について伝える。 ・「繰り返し」ブロックの使い方を説明	
繰り返しを使った正三角形と正方形の作図	・繰り返しを使って正三角形、正方形を描く	・どの部分に繰り返し処理を使えるか考えられるように声をかける。 ・繰り返し処理を使うことで、プログラムが短く、効率的になることを実感させる。
まとめ振り返り	・今日学んだことを振り返る	



【成果①】

授業を通じて、児童は生活の中でよく行う「右回り」や「左回り」の動作を、数値（角度）で表現する方法を理解できるようになった。特に、90 度回転という具体的な数値を用いることで、日常的な動きと数学的な概念（角度）との関連性を実感できた。このことによって、抽象的な概念が具体的に捉えられるようになり、算数に対する興味や関心が深まった様子が見受けられた。

【成果②】

正多角形をコンパスや定規を使って描くことが難しいと感じた児童は、プログラミングを活用することでその難しさを克服できたことに気づいた。特に、Scratch の「繰り返し」処理を用いて正多角形を描くことで、同じ操作を何度も繰り返す手間を省き、瞬時に正確な形を描けることに感動していた。この活動を通じて、プログラミングが数学的な問題解決においていかに効率的で便利であるかを実感した。

【課題】

プログラミングによるトライアンドエラーの過程では、児童が繰り返し試すことで問題を解決する良さが見られた。しかし、その反面、一部の児童は数値を適当に変更して図形を完成させてしまう場面があった。特に、意図的に角度や繰り返し回数を設定することに対する理解が不十分な場合、図形が完全に正しく描けなくても、「なんとなく」完成させてしまうことがあった。このようなアプローチは、数学的な思考や計算に対する深い理解を欠く恐れがあり、プログラミングの効果を最大限に引き出すためには、数値の意味や設定の理由をしっかりと考えることが重要だと感じた。

令和6年度 野洲市小中学校教育研究会 視聴覚教育部会研究報告

1 都市名 野洲市

2 研究テーマ

多様なメディアと「ふれあい」「あそびあい」「創りあえる」子どもを育てよう
～児童・生徒のあゆみに寄り添って、多様なメディアを通して対話しあえる授業の実現をめざそう～

3 研究組織

部会長		幹事		研究推進委員	
小濱 玲子 (篠原小)		石橋 正樹 (篠原小)		棚橋 良介 (祇王小)	
中野 広治 (野洲中)		赤穂 史陽 (野洲中)		岩本 泰蔵 (中主中)	
各校代表者	学校名	氏名 (学年)	学校名	氏名 (学年)	
	中主小学校	中川 竣介 (肢)	中主中学校	岩本 泰蔵 (3)	
	篠原小学校	石橋 正樹 (教)	野洲中学校	赤穂 史陽 (2)	
	祇王小学校	棚橋 良介 (3)	野洲北中学校	奥居 由希 (1)	
	三上小学校	築山 悟史 (1)			
	野洲小学校	三上 芳典 (教)			
	北野小学校	脇坂 英孝 (教)			

4 年間研究活動報告

学期	活動の概要
1学期	・研究活動計画の組織・体制・主題の決定 ・視聴覚・情報機器を活用した授業の実践(各校)及び情報交流
2学期	・視聴覚・情報機器を活用した授業の実践(各校)及び情報交流
3学期	・視聴覚・情報機器を活用した授業の実践(各校) ・研究のまとめ

5 野洲市立祇王小学校の取り組みと実践

野洲市立祇王小学校では、ICT推進委員とコアティーチャーを中心にタブレット端末の活用方法について実践を重ねている。ICT機器の活用を進めるためにICT支援員さんのバックアップにもお力添えを頂き、全学年においてタブレット端末を活用した授業実践を進めている。

本報告では、2学期までに取り組んだ授業実践の中からタブレットの活用事例と、タブレット端末の活用を推進していくために取り組んだ内容について紹介する。

(1) 第4学年音楽科での実践

音楽科「地いきに伝わる音楽を調べよう」

①活用実践の概要

グループ毎に、日本各地に伝わる伝統的な音楽を調べまとめたことを発表した。ロイロの共有ノート機能を活用し、グループ内で役割分担をして発表資料を作成した。



②主な成果と課題

【成果】

○共有ノートの活用により、効率よく役割分担をして調べたりまとめたりすることができた。2時間の準備時間で、1グループ5分程度の内容をまとめることができたのは共有機能の大きな強みであった。

【課題】

▲同時に同じページを編集しようとする時、カーソルが移動して打ちずらかったり間違っただけでデータを消したりしてしまうことがあり不便さを感じていた児童もいた。

発表資料の一例

【楽器】

- ・三板（サンバ）
- ・四ツ竹
- ・琉球笛
- ・琉球箏（りゅうきゅうそう）
- ・胡弓（クーチョー）
- ・平太鼓
- ・締太鼓
- ・パーランクー
- ・チチン太鼓

(2) 第4学年学級活動での実践

①活用実践の概要

プロジェクト活動（係活動）で Canva を活用し、児童が自主的に新聞・アンケート・チラシ・ポスター・表彰状・カレンダー・テスト問題・スタンプラリーカード・ムービーなどを作成した。

グルメプロジェクト
お店を紹介するチラシ

②主な成果と課題

【成果】

○児童は Canva で何かを作ることを心の底から楽しみにしており、クラスみんなが楽しめる何かを生み出すことに前向きに取り組めた。

○中学年の児童でも、完成度の高いチラシやポスター、表彰状などを手軽に作ることができる。友だちが作ったものに興味をもち、使い方を教え合うなどお互いを認め、高め合うことができた。

【課題】

▲印刷する場合は、子どもだけではできなかった。



新聞プロジェクト（12月号）と
あいさつプロジェクト表彰状



(3) 特別支援学級（肢体不自由）での実践

①活用実践の概要

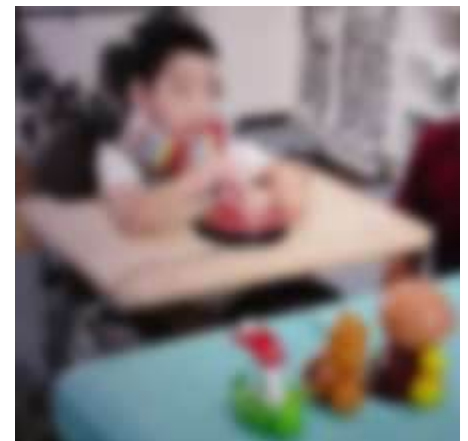
本学級の児童は、身体を自由に動かすことができず、声やジェスチャーでコミュニケーションをとることも難しい。そこで、ICT機器を活用して、視線や少しの手の動きなど、本児の可能な限りの動きをもとに意思表示をする練習をしている。

一つ目が、視線入力装置の活用である。この装置は、視線を感知して目で追ったところに線を引いたり、画面上に視線を向けることで様々なアクションを楽しむことができる。画像①は、視線の動きによって絵を描いている様子で、丸いポインター部分に視線が当たっている。



<画像①>

二つ目が、手元に置いた大きなスイッチを押すことで、その先につながった道具を動かす練習である。画像②は、本児が好きな玩具をコードでつなぎ、スイッチを押すことで動かしている様子である。動かす対象の物を変えながら、本児がより興味をもってスイッチを押そうとする物を試行錯誤している。



<画像②>

これらの遊びを通した操作経験を積むことで、「視線を向ける」「スイッチを押す」という自分からのアクションによって、「何かが起こる」という認識をもてるようになることをねらいとしている。

②主な成果と課題

【成果】

- 本児が自分の意志で最も動かしやすい「視線」を活用した装置の実践を積めたことは、大きな前進であった。特に視線を向けて風船を割るゲームでは、「自分のアクションによって風船が割れる」ということを認識できてきた。
- 手元のスイッチを押そうという気持ちが出てきたことで、動かす対象の物をいろいろと試すことができるようになってきた。

【課題】

- ▲スイッチについては、機器の接続が難しく、本児に合った物を試す際に外部の人員に頼らざるを得ないのが現状で、練習する時間が限られることが課題である。
- ▲手を動かす動作は、本児にとって容易ではないため、日々のリハビリやマッサージ等によって、少しでも手足を動かしやすくするためのトレーニングを継続する必要がある。

(4) 第6学年 道徳科での実践

①活用実践の概要

道徳科「わたしのせいじゃない」

15人のクラスで1人の子が泣いている。14人は自分が見たことやしたことについて話す。誰もが「わたしのせいじゃない。」という。いじめの4層構造の中にある「加害者」「傍観者」「観衆」これらに該当する14人に、「いじめを断ち切るため、自分はどの子にどのように関わっていくか。」についてロイロノート提出箱の共有機能を活用した。活用の仕方については以下の通りである。

- ①自分の考えを付箋に書いて提出する。
- ②提出後、共有化された友だちの考えを見る。
- ③自分と違う考えについて友達から理由を聞く。
- ④もう一度、自分ならどうするかについて考えたことを振り返りとして書く。



(5) 第6学年 国語科での実践

①活用実践の概要

国語科「デジタル機器とわたしたち」

学校や家庭でもインターネットにアクセスしたり、写真や動画を撮影する機会が格段に増えた。使い慣れている便利さの裏で「著作権」や「使用時間」など気をつけなければならない面も多くある。今回は児童たちが感じているインターネットや電子機器を扱う上での問題点を基にチームをつくり、共有ノートを活用して資料を作成し、提案会を行った。



②主な成果と課題

【成果】

- 一度に多くの人の情報を得ることのできる提出箱の共有化は、道徳の学習で自分の考えを広げたり、深めたりする上で非常に効果があった。また、普段自分の意見が言いにくい児童にとっても意見を出しやすい様子を見せた。
- 同じ問題意識をもった友だちと、同じノート上で資料を作成できる環境は子どもの主体的な学びに大きく影響を与えた。チームによっては、家に持ち帰った後、時間を合わせて一緒につくる約束をしていた児童もいた。

【課題】

- ▲提出箱の共有された付箋を読むことに集中しすぎる場合があり、対話に移行するまでは時間がかかった。学習展開の工夫が必要だと感じた。

(6) その他

学校全体で児童の学びを広げたり、深めたりする手段として、ICT機器の活用を進めていくために、以下の取り組みも行った。それにより、タブレット端末を活用した授業づくりに取り組む教職員が増え、児童にとって学びのツールとなっている場面が多く見られてきている。OJTでも実践内容を共有し、学校全体でタブレット端末の活用方法について研究している最中である。校内研やICT研修などを通して、今後もよりよい活用方法を見出していきたい。タブレット端末を必ず使わなければいけないものとして考えるのではなく、学習の中で児童の考えが深まる手段としての活用ということを常に意識しながら効果的に活用していきたい。

①情報教育年間指導計画の刷新

今年度初めに、「祇王小学校プログラミング教育年間指導計画 ミニマム（必要最低限）モデル」を新たに作成した。祇王小学校では、プログラミングに興味をもち慣れ親しむ学習に取り組めるように、算数科の教科書(大日本図書)で扱われている「プログラミング的思考を育む単元・教材」の内容を踏まえ、各学年の「年間指導計画」に位置付けて実践している。同時に、各学年で身につけさせたい「情報や情報技術を適切に活用する知識・技能」を発達段階に応じて設定し、小学校6年間を通して、ICT機器の活用スキルを高めている最中である。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
①プログラミングに興味をもち慣れ親しむ学習	算数科 「ゲームを遊ぶ」	算数科 「知らなかったらどうしよう」 「かけ算のプログラムをつくろう」	算数科 「おはじき遊びゲーム」 「単位へんかんをつくろう」	算数科 「アルゴリズムを整理しよう」 「変わり方を調べよう」 「はらみ算をつくろう」	算数科 「数のわり算の準備のしかたを整理しよう」 「はらみ算をつくろう」	算数科 「数が同じ図形を分けよう」 「広さのグラフをかこう」
教科書への位置付け	一各教科等（生活科・総合的な学習や学級活動も含む）に位置付ける場合は、その学びがより確実となるように各教科等の内容を鑑みて位置付ける（単元を組めず）ようにする。 一本校の教育課程内で各教科等とは別に位置付けて実施する。（教科印刷2時間を書き添えて学習を促進する。）					
教科のねらいに 沿いながら発展的に学び「プログラミング思考」を育成する学習		算数科 お話を読み、好きなところをつたえよう 「スイート」 経験したことやアニメで表現しよう(1)		社会科 特色ある都道府県 旗のクイズをせうらう(1)		
情報や情報技術を適切に活用する知識・技能	・タブレットで自分でのデザインができる。 ・タブレットの使い方がわかる。 ①グリッド・ダブルタップ・ドラッグができる。	・ロイロで写真を撮って、動画を撮影することができる。 ・読み上げ機能などを使って、調べ学習にチャレンジする。 ・タブレットの使い方がわかる。 ②タップ・ダブルタップ・ドラッグ・スワイプができる。	調べ学習のしかたがわかる。 ・資料を受け取る、提出する、カードに字を打ち込むなど、ロイロの基本操作の使い方がわかる。 ・インターネットの画像を参照し、ロイロに取りこむことができる。 ③ローマ字入力ができる。 ④選んだ文字を置換できる。	タイピングを得意とするようチャレンジする。 調べ学習のしかたがわかる。 ロイロで、写真を入力するなどの工夫をしてカードをつくることができる。 Teamsで離れた遠隔で自分で見ることが出来る。 ④ローマ字入力ができる。 ⑤リンク集などからインターネットによる調べ学習ができる。 ⑥ローマ字入力ができる。	調べ学習では、調べたことを自分で調べることができる。 ロイロでプレゼン資料を自分で作れるようになる。 Teamsで動画の投稿に挑戦することができる。 ロイロでプレゼンテーションを得意にして文字入力ができる。	④5分野に10分間の実学生入力できる。 ⑤キーボード操作やカメラ機能などの学習を促して、調べ学習ができる。 ⑥プレゼンテーションソフトを効果的に使い分けられる。研

②タブレット教室の開催

休み時間に、「タブレット教室」を開催した。ここでは、主に児童らが「scratch」というプログラミング学習ソフトを用いて、プログラミング体験をした。作ったプログラムを実行すればキャラクターが動き出し、それを見ながらプログラムを修正しては実行するトライ＆エラーを楽しんだり、児童らの自由な発想に基づいたプログラムを交流したりした。児童らの中には、プログラミングを組むことが得意な子もおり、自然と学び合いの環境が生まれ、協働して課題に取り組んでいた。ICT支援員さんと今後の活動内容について検討を重ね、有意義な時間となるようにしていきたい。

